

会員の声

G7外相会議余話

医療法人社団弘仁会理事長 清水 裕弘

このたび、広島で行われたG7外相会議において米国の高官で初めて来広したケリー国務長官が、原爆投下後初めて被爆地広島の慰霊碑と原爆ドームを訪問し、原爆資料館の視察では、はらわたがえぐられるようだったと語り、戦争がいかに人々に惨禍をもたらすかを知る上で忘れられない経験となった、あの展示を誰も忘れられる人はいないだろうと語り、世界中の誰もが記念館を見学して感じるべきで、すべての人々は広島を訪問するべきだとの談話を聞き、昭和45年(1970年)留学先のニューヨーク医科大学で原爆被爆者である私に原爆投下後の血液疾患、特に白血病の発生について発表するようにとの事で、広大原医研内科・内野治人教授の許可を得て、原爆被爆者のスライドを交えてつたない英語で発表した時の事を思い出しました。

出席者の中には、原爆被爆者の若い女性がケロイド治療を受けたマウントサイナイ病院で有名な血液学者ワッサーマン教授(梅毒反応で有名なワッサーマン博士の縁者)とか、大学の恩

師のルービー教授、クーパーマン教授(葉酸の研究で有名)等々が出席していましたが、パールハーバーの奇襲作戦や太平洋戦争終結が原爆投下で早まった事などの意見が多く出て、被爆者に対する哀悼の言葉や意見はほとんどなかったように思います。

ところが、私が2年間の留学を終えて帰国したあと、昭和52年(1977年)にクーパーマン教授が来日して日本各地を案内し、最後に放影研(旧ABCC)、原爆ドームや原爆資料館を案内した時に、ニューヨークでの発表の時あれほど原爆投下をかたくなに肯定していた彼が被爆者の悲惨な写真とドームを見た時涙を流しながら見学し終わったあと原爆の悲惨さを語り、自分の考えていた事が間違っていたと言って、長い長い感想文を芳名録に記帳していたのを今更ながら思い出した次第です。

ケリー国務長官が語っておられたように、世界中の誰もが資料館を見学して原爆被爆の悲惨さを認識すべきだと思っております。

広島医家芸術展

平成28年3月3日(木)から8日(火)まで開催された第47回広島医家芸術展の出品作品(絵画24点、写真15点、書4点、木版画2点、彫刻1点、篆刻1点、工芸4点)をHPページで公開しています。

また、第35回(平成15年度)からの作品についても掲載しております。

あわせてご覧ください。

<http://www.hiroshima.med.or.jp/jigyo/geijutsuten.html>

広島医家芸術展

検索

連絡先 広島県医師会 広報保険課

TEL: 082-568-1511 FAX: 082-568-2112

Eメール: kouhou@hiroshima.med.or.jp

